



## 巻頭特集

### 令和6年能登半島地震における 当院の活動

救護所で診察する当院救護班医師

## CONTENTS

- 院長年頭挨拶／令和6年能登半島地震災害義援金受付のお知らせ … P. 4
- 密着取材！泌尿器科医師の1日 …………… P. 5
- 地域医療連携だより …………… P. 6～
- INFORMATION …………… 裏表紙

令和6年 新春号

Vol. 78

### ～ 受診される患者さまの権利 ～

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 個人の人権を尊重した良質な医療を受ける権利 | 4. 自らの意思で検査・治療法などを選択、あるいは拒否する権利 |
| 2. プライバシーが保護される権利        | 5. セカンドオピニオンを得る権利               |
| 3. 納得のいく説明と情報提供を受ける権利    |                                 |



# 「特集」

# 令和6年能登半島地震 における 当院の活動

当院では、令和6年1月1日に発生した能登地方を震源とする地震災害に対し、埼玉県や日本赤十字社（第2ブロック）、厚生労働省からの要請を受け、救護・支援活動等を行っています。  
今回はその活動の様子をご紹介します。



## 医療救護班

災害時に円滑な医療救護活動を行うための研修や訓練を積んだ、日本赤十字社独自の医療救護チームのこと。医師1名・看護師長1名・看護師2名・薬剤師1名・主事（事務系職員）2名の計7名を1班としており、当院では3個班を常備しています。

- 期間：令和6年1月13日～17日
- 派遣先：石川県珠洲市
- 派遣職種：医師1名・看護師長1名・看護師2名・薬剤師1名・主事（事務）3名

### 救護班活動に参加して

### 小児外科部長 寺脇 幹

現地に近づくにつれて、大きく地割れした路面や全壊してしまった木造の家が次々に目に入るようになり、復興までの道のりの遠さを思い知るとともに、住み慣れた街が一変してしまった被災者の方々の心中を察しながら救護活動を開始しました。

高度な医療を必要とする患者さんの多くは、地震発生から2週間経過していることもあり、既に金沢以南へ搬送されました。そのため我々が巡回した避難所や救護所で診療した患者さんは、体調に大きな問題はないものの、高血圧等の内服薬の継続処方希望という方が多くいました。

日赤が設置した「すずなり救護所」の受診者数は、深谷救護班が担当した15日は19人、以後も多い日は45人を数えるなど、設立の目的のひとつである珠洲市総合病院救急外来の負担を軽減することに繋がっているものと考えています。

まだまだ寒い季節が続きます。被災地では水洗トイレ、温かい食事、段ボールベッド、入浴、どれも満足にできていません。災害関連死をこれ以上出さないための努力を、関係するすべての団体が一体となって進めていく必要性を感じました。



▲日赤石川県支部でフリージング（活動前の情報提供）を受ける様子

▲避難者が服薬している薬を確認する救護班薬剤師

▲救護所（リフトテント）を立ち上げる様子

▲救護所や避難所で被災者を診察する救護班医師連



# DMAT

災害発生直後(概ね48時間以内)から活動できる、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームのこと。日本赤十字社ではなく、厚生労働省や各都道府県が統括しています。

- 期間：令和6年1月11日～18日
- 派遣先：石川県珠洲市
- 派遣職種：医師1名・看護師1名・業務調整員2名(院内職種：薬剤師1名・臨床工学技士1名)
- 活動内容：SCU(珠洲ケアユニット)にて、自衛隊等が福祉避難所から搬送してきた要介護者を受け入れアセスメントを行った後、収容環境の整った施設に搬送するための調整活動を行いました。



▲珠洲ケアユニットにて患者の搬送調整を行う様子



▲自衛隊より要介護者を引き受ける様子 ▲調整業務中の隊員

## 日赤災害医療コーディネーターチーム

災害時に、行政機関や医療機関等との連携のもと、被災地における医療ニーズを把握し、救護班の活動調整等を行うチームのこと。

- 期間：令和6年1月15日～21日
- 派遣先：石川県珠洲市
- 派遣職種：医師1名・看護師1名

### 日赤災害医療コーディネーターとして支援活動に携わって

第二内科部長 宮嶋 玲人

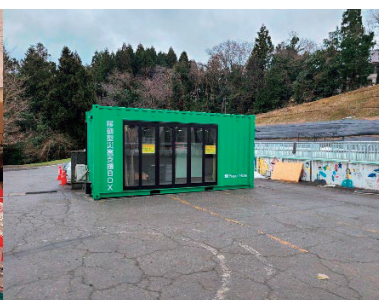
日赤の担う避難所は、40弱ある上に範囲が広く、避難者数が十数人のところもあれば150人を超える所もありました。避難所によっては感染症が流行し、衛生環境も土足のままで悪い所もありました。これらの情報から、各救護班にどの避難所を巡回するかを調整しました。

また、救護班から得た課題を他団体・行政へ、他団体・行政からの課題を救護班へ繋げ、課題解決に努める活動も行いました。その一部を紹介しますと、道路状況が悪く避難所へ行けない事態を報告すると、その報告を受けた行政がすぐさま道路の補正を行い、避難所までの経路が確保されるようになりました。他にも、新たに医療コンテナを設置したり、災害から2週間以上経過した後に発見された外国人被災者の集団を救護班が対応したりと、日々新たな課題に取り組みました。

刻々と状況が変化し、新たな課題が山積する中、救護班の活動指揮をとりながら各団体、行政との調整を行い多忙な日々を過ごしました。現場から離れ振り返ると反省点ばかり思い浮かびます。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



▲全体ミーティングの様子



▲現地に設置された、医療用コンテナ(移動型災害支援BOX)



▲当院から派遣された根岸看護師と宮嶋医師 ▲活動本部で調整業務を行う様子

## 被災地病院支援看護師

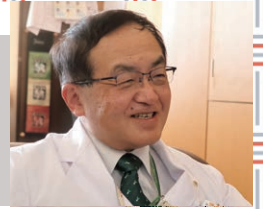
日赤本社から、被災地病院への支援看護師派遣依頼があり、当院より看護師(看護師長)を派遣登録したことで支援に至りました。

- 期間：令和6年1月22日～28日
- 派遣先：石川県輪島市
- 派遣職種：看護師1名
- 活動内容：市立輪島病院にて、感染症病棟での環境整備やオムツ交換、配膳並びに食事介助等の病棟業務に当たりました。



# 院長年頭挨拶

深谷赤十字病院  
院長 伊藤 博



本年は、元日に能登半島地震、2日には羽田空港で日本航空516便と海上保安庁機の衝突事故が発生するなど、心の痛むニュースの多い年明けとなりました。犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。当院でも令和6年能登半島地震に対して、1月末時点では、DMAT2隊(8名)、救護班2班17名、日赤災害医療コーディネーターチーム2名、被災地病院支援看護師1名の計28名の職員を現地に派遣し、災害救護支援活動を行っています。今後もできる限りの支援を続けていきたいと考えています。

## ◆令和5年を振り返って

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行してから、日常の診療業務・病院行事がコロナ禍以前のように再開されていきました。

4月には、埼玉県北部地域の病院では初となる、卒後臨床研修評価機構(JCEP)から4年の認定を受けました。これは研修医の確保を優先課題としている当院にとって重要な受審でした。診療面では泌尿器科領域に続き、外科領域でのダビンチ手術(幽門側胃切除術・噴門側胃切除術・胃全摘術)を行いました。また、5月には派遣型救急ワークステーションの運用を本格的に開始するなど、病院機能の拡充にも注力した1年でした。

## ◆令和6年度に向けて

私の院長としての任期も残り1年となりました。病院の経営資源を構成する3つの要素(人材・資金・設備)における重要課題を考えていきたいと思えます。

### [人材確保について]

少子高齢化やコロナの影響もあり、今後は看護師や薬剤師の確保に難儀することが考えられます。医療の質を維持するためにも、人材の確保に注力しなければなりません。

### [経営面について]

現在、病院の経営状況は芳しいとは言えませんが、約20年後に迫る新病院の建設に向けた自己資金の確保も視野に入れなければなりません。また、6月に控えている診療報酬改定に向けた準備も着実に進めて参ります。

### [設備投資について]

深谷市から多大なご支援をいただいたことで放射線治療装置の更新が実現し、2月から新装置の運用を開始いたします。今後も診療機能充実のための医療機器設備投資も引き続き行っていきます。

## ◆最後に

埼玉県北部における唯一の公的総合病院として、救急医療・がん診療・小児周産期医療など、いわゆる「政策医療」を中心に、地元の先生方や住民の皆さまに信頼される医療を継続していく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和6年能登半島地震災害義援金を 受け付けています

日本赤十字社では、被災地の1日でも早い復旧を願い、令和6年能登半島地震災害による義援金を受け付けております。

皆様からお寄せいただいた義援金は、被災した都道府県が設置する義援金配分委員会へ全額送金され、同委員会が定めた配分基準に則り、被災者へ届けられます。

当院では、会計窓口(エントランスホール1階)、救急外来前に募金箱を設置しております。

皆さまからの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。





密着取材!

# 泌尿器科医師の1日

～当院スタッフの「とある1日」をご紹介します～



ちば かずと  
**千葉 量人**

泌尿器科医師  
(泌尿器科部長)

## 当院の泌尿器科診療について・・・

腎臓、膀胱、前立腺の悪性腫瘍に対する治療において、当院では腹部を大きく切開する従来の手術に頼らず、腹腔鏡やダビンチなどの低侵襲手術を積極的に採用しております。同様に、前立腺肥大症や尿管結石に対するレーザー治療においても、多くの実績を有しております。これらの治療法により、患者様の回復や生活の質の向上を目指しております。近隣の医療機関からのご紹介も心よりお待ちしております。

## 手術を行う日

### ダビンチ手術の実施 (前立腺全摘除術)

9:00～



前立腺がんの患者さんに、手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた手術を行いました。ダビンチを使用することで、より正確かつ安全な手技が実現できます。また、傷口が小さく、出血も少なく済むため、患者さんの身体的負担が軽減されます。



別の日には、若手医師が執刀する手術があったため、手術手技の指導にあたりました。指導医として、後進育成にも力を注いでいます。

### ダビンチ手術の指導 (前立腺悪性腫瘍摘出術)



▲デュアルコンソールで操作する様子(写真左)

当院ではデュアルコンソールを導入しています。2台の操作機で同時に手術操作ができるため、術者に対して安全かつ効果的な指導ができます。

### レーザー手術の実施

14:00～

(HoLEP:経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術)



前立腺肥大症の患者さんに対し、内視鏡とレーザーによる前立腺切除手術を行いました。

これは尿道から内視鏡を入れ、内視鏡の先端から出るレーザー光で肥大した患部を切り離す治療法で、従来の治療法に比べて、出血や術後の痛みが少なく、入院期間も短く済みます。

## 外来診療を行う日

9:00～

### 泌尿器科外来にて診察

週に一度の外来診療日には、検査結果の説明や手術後の経過観察等の他、ステント交換などの処置も行います。



患者さんに聞きました!千葉先生ってどんな先生ですか?

「手術のリスク等も含め、説明をしっかりとってくれる、優しくて患者想いの先生です」

12:30

### 筋力トレーニング

たくさんの手術をこなすには体力も必要!  
体力維持・増進のため、業務の間には筋力トレーニングに励んでいます。



▲懸垂の他にランニングを行う日も

15:30～

### カンファレンスに参加

週に一度、当院の泌尿器科医師が集うカンファレンスでは、それぞれの主治医がプレゼンテーションを行い、それに対し全員でディスカッションをすることで、患者さんにとって最適な治療方針を検討していきます。



## Pick Up ダビンチを用いた膀胱全摘術も行っています

2年間にわたり埼玉県北部地域の医療に携わって感じたことは、特に膀胱がんの進行例が著しく多く、それに伴う膀胱全摘の患者数が非常に増加していることです。従来の開腹手術による膀胱全摘は侵襲が大きなものでしたが、ダビンチ手術の導入により、手術に伴う身体へのダメージが軽減されていることを実感しています。

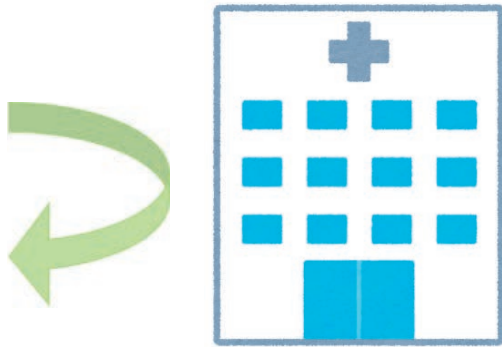
ただし、依然としてがん治療の基本は早期発見と早期治療であり、血尿を認められた患者さんについては、できるだけ早く近隣の泌尿器科専門医にご紹介いただければと考えております。早期の専門医へのアクセスが治療成績向上に繋がることが願っております。



▲ダビンチ手術の様子

# 地域医療連携だより

深谷赤十字病院は地域との医療連携に努めています。



当院は、初期診療や慢性の継続診療などは「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行っており、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

毎号、医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介しています。

## おおはま整形外科

住所 〒366-0051 深谷市上柴町東4-8-25  
電話 048-575-4154  
院長 大瀨 玄  
診療科 整形外科、リハビリテーション科  
休診日 木曜、日曜、祝日  
診療時間 午前9時～11時30分 午後2時～6時  
※土曜午後は2時～5時



### 院長先生からのメッセージ

当院は令和4年6月に開院したばかりの新しい整形外科クリニックです。理学療法士によるリハビリができます。骨密度の測定もできますので骨粗鬆症の心配がある方は気軽にご相談ください。

## 吉田医院

住所 〒366-0826 深谷市田所町8-1  
電話 048-571-0232  
院長 吉田 俊太郎  
診療科 内科、消化器内科、眼科  
休診日 木曜、日曜、祝日、土曜午後（眼科は火曜休診）  
※眼科の午後診療は予約制  
診療時間 午前9時～12時 午後3時～5時30分



### 院長先生からのメッセージ

ここ深谷市で約90年かかりつけ医を継続し、2023年に三代目院長として吉田俊太郎が就任しました。内科、眼科による病気診断と、内視鏡検査を柱とした病気予防も行い、当院に関わる方を幸せにできる診療所を目標に診療をしております。詳しくはホームページをご覧ください。



## <地域の皆様へのご案内>

### 当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

**紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科7,700円・歯科5,500円）のご負担がなくなります。**



### 大塚医院ファミリークリニック

住 所 〒360-0835 熊谷市大麻生1396  
電 話 048-501-6115  
院 長 大塚 貴博  
診 療 科 内科、小児科、訪問診療  
休 診 日 水曜、日曜、祝日、土曜午後  
診 療 時 間 午前9時～12時 午後4時30分～6時30分  
※土曜午前は13時まで  
訪 問 診 療 午後1時30分～4時



#### 院長先生からのメッセージ

当院は「地域で暮らす総ての人々の 安心と生活を支える」を理念に、地域包括ケアのいち担い手としてあらゆるプライマリ・ケアニーズに応えてまいります。

私自身は深谷赤十字病院で医師のキャリアをスタートしましたので、医療人材育成でも微力ながらお手伝いできればと思います。

### 埼玉県立皆光園障害者歯科診療所

住 所 〒366-0811 深谷市人見1996-2  
電 話 048-574-8211  
院 長 山口 武人  
診 療 科 歯科、小児歯科  
休 診 日 日曜、祝日、第2・第4・第5土曜  
診 療 時 間 午前9時～12時 午後1時30分～5時  
※午後の受付は3時30分まで



#### 院長先生からのメッセージ

埼玉県障害者歯科診療ネットワーク事業の県北地域の拠点で、障害や病気で地域医療機関での診療が困難な患者さんのための診療所です。小児歯科、口腔外科、歯科麻酔科および摂食嚥下リハビリテーション科などの専門医が対応しております。これからもよろしく願いいたします。

# 放射線治療装置（リニアック）を 更新しました

放射線治療科

この度、当院では深谷市からの助成を受け、放射線治療装置（リニアック）を更新いたしました。装置はバリアン社製 TrueBeam で、最新のソフトウェアを搭載しており、世界中の多くの病院で導入実績のある、標準的かつ全ての放射線治療に対応できるオールマイティな最先端技術を有しています。

当院は「地域がん診療連携拠点病院」であり、外科的手術・化学療法・放射線治療を三本の柱として、専門的ながん治療を行う病院に位置づけられています。放射線治療を行う患者様は年間538名になります。（令和4年実績）

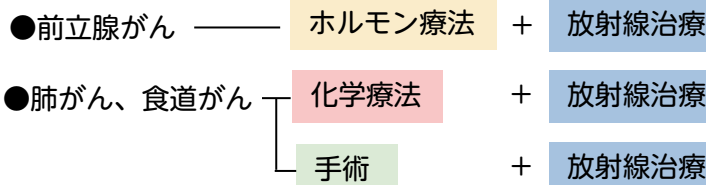
更新による治療の中断がありました。準備が整ったことにより、**2024年2月7日から治療を再開いたします。**

放射線治療科の医師、看護師、診療放射線技師、医学物理士、事務員が一丸となって、患者様とご家族、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

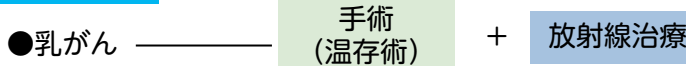
放射線治療科への受診は『予約制』となっております。受診をご希望される場合、主治医の先生による紹介状が必要となります。かかりつけの医師にご相談ください。予約に際しましては、当院ホームページ内・放射線治療科の項目をご参照ください。

## 「放射線治療」が関わるがん治療の一例

### 根治照射



### 予防照射



### 緩和照射



←新たに導入した放射線治療装置 米国バリアン社製 TrueBeam



## 深谷赤十字病院の理念と基本方針

### 理念

人道・博愛の赤十字精神のもと、地域の皆様の健康を守り、信頼される医療を提供します

- 1 医療人として生命倫理を最大限尊重します
- 2 医療の質の向上に努めます
- 3 患者中心の医療を行います
- 4 地域との医療連携に努めます
- 5 災害救護と国際活動に貢献します
- 6 健全経営による働き甲斐のある病院を目指します

### 基本方針

## 深谷赤十字病院臨床研修の理念と基本方針

### 理念

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できる診療能力を身につける。

- 1 基本的診療能力の習得  
臨床医として将来専門とする分野に関わらず必要な基本的診療能力を習得する。
- 2 患者の立場に立った医療を実践  
医師として患者から人間としても信頼される思いやりの心を持った謙虚な医療人となり、患者の立場に立った医療を実践する。
- 3 チーム医療の実践  
チーム医療の大切さを理解して院内の他職種と連携を密にしてコミュニケーションを取りながら安全な医療を提供する。
- 4 地域医療に貢献  
地域の中核病院としての役割を理解し、地域医療に関心を持ち、地域医療の現場を経験する。
- 5 赤十字病院の責務や理解  
赤十字病院として公的病院の責務や災害時における医療救護活動を理解する。
- 6 生涯学習の継続  
質の高い医療を提供できるよう、生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を実践し、医療技術の習得に努める。また、後輩を育成することによって自らが学ぶ姿勢を有する。

### 基本方針



皆さまへより良い情報提供ができる誌面づくりを目指しております。本誌に対するアンケートにご協力いただいた方には赤十字グッズを差し上げます。

アンケートはこちらのQRコードから  
(アンケートサイトに飛びます)



深谷赤十字病院

日本赤十字社

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1  
Tel 048-571-1511 (代)  
<http://www.fukaya.jrc.or.jp>

Vol.78 令和6年2月9日発行  
編集発行：深谷赤十字病院  
広報・公聴委員会